

(1) 研究歴

年 度	研 究 主 題
平成30年度 ～令和元年度	心豊かで、確かな学力を身に付けた児童の育成 －学びを深め、基礎・基本を定着させる指導法の工夫と実践－
令和2年度 ～令和3年度	心豊かで、確かな学力を身に付けた児童の育成 －学びを深める授業と指導法のあり方－
令和4年度 ～令和5年度	共に学び合い、確かな学力を身に付けた児童の育成 －3部会の組織で高める「学びを深める授業と指導法のあり方」－

(2) 研究主題

共に学び合い、確かな学力を身に付けた児童の育成
－3部会の組織で高める「対話」で学びを深める授業と指導法のあり方－

(3) 研究主題設定の理由

(1) 研究のねらい

本校では、児童が学びやすい環境の中で、共に学び合い、確かな学力が身に付けられるよう、次の「授業部」「情報部」「環境部」の3部会を編成して現職教育を進める。

①授業部

過去3か年の全国学力学習状況調査の結果は、習熟度の「底上げ」を図ってきた成果と、学力の高い児童が学習をリードできていないという「学習集団の伸び悩み」の状態が見られた。そこで、「学びを深める対話を引き起こす授業の仕掛け」を視点とした授業研究を目指し、授業部を中心に全校で研究授業を行い、教員の授業力向上を目指す。

②情報部

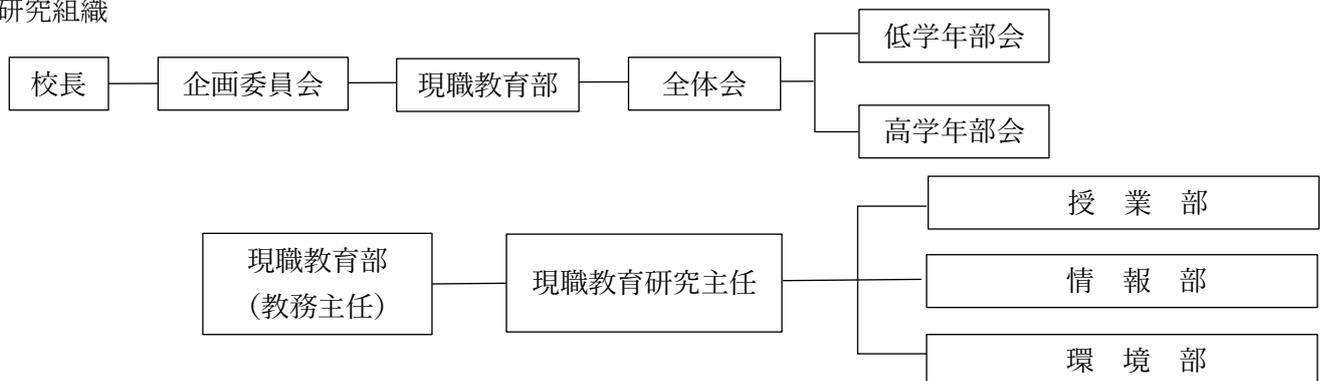
GIGA構想を受けてのタブレット導入、情報モラル学習の必要性の高まりなどから、情報教育の向上が重要度を増している。そこで、児童が学び合いの中で、知識・理解を深め、技能の定着を図ることができるよう、情報部を中心に、全校で授業実践を行う。

③環境部

本校では、社会の変化に伴い、規律の目的やそれを具現化した掲示や標示案内が、風化や劣化をしているものが多くある。そこで、本校の現状を踏まえ、ルールや環境面の改善を行っている。本年は、環境部が中心となり、授業部、情報部と連携しながら「学びやすい環境作り」を視野に入れたアプローチで、環境改善を図る。

(2) 研究計画

①研究組織



②実施計画 ※令和6年4月1日現在の計画

月	授業部	情報部	環境部
4	・現職教育全体会 ・授業部会	・現職教育全体会 ・情報部会 ・プログラミング教育を生かした実践の方法について	・現職教育全体会 ・環境部会 ・エピペン講習会 ・感染症予防シミュレーション ・感染症対策環境づくり ・着席、板書、聞き方等 学習規律の共通理解
5	・研究授業計画 ・示範授業 ・学校訪問	・研究方法と評価の計画 (タブレットPCの活用計画)	・研究方法と評価の計画
6	・研究授業, 研究協議	・情報モラル教育の実践	・重大事故防止シミュレーション ・成績処理方法の講習会 ・Q-U、ピアサポート等実施
7	・授業研究部会 ・現職教育講演会	・タブレットPCの研修 ・現職教育講演会	・ピアサポートの実践 ・現職教育講演会
8	・学習指導法伝達講習	・現職教育全体会 ・学習指導法伝達講習	・現職教育全体会 ・学習指導法伝達講習 ・学習生活環境の再整備 ・不審者対応訓練シミュレーション
9	・現職教育全体会	・タブレットPCの研修	・ピアサポートの実践
10	・学校公開（代表）研究授業 研究協議	・現職教育全体会 ・研究授業, 研究協議	・現職教育全体会
11	・研究授業, 研究協議	・研究授業, 研究協議	・ピアサポートの実践
12	・現職教育全体会 ・現職教育講演会	・現職教育全体会 ・現職教育講演会	・現職教育全体会 ・Q-U等実施 ・現職教育講演会
1	・研究授業, 研究協議	・アンプラグドプログラミング	・評価アンケート作成と実施
2	・研究授業, 研究協議 ・評価評定検討会	・情報モラル教育の実践 ・研究授業, 研究協議	・初任研課題研究報告会 ・ピアサポートの実践
3	・授業部会 ・現職教育全体会	・情報部会 ・現職教育全体会	・ピアサポートの実践 ・環境部会 ・現職教育全体会

③評価計画

- ・教職員アンケート
- ・授業実践を実施した部分のペーパーテストの得点率比較やアンケート

④一宮市学校教育推進プランの指標による評価について

評価指標（答える児童の割合）	令和5年度 到達度	令和6年度 目標値
「学校が楽しい」	71.2%	75%
「学校が楽しい, どちらかといえば楽しい」	94.8%	95%
授業の内容が「よくわかる」と答えた児童の割合	53.5%	55%
授業の内容が「よくわかる・だいたいわかる」	86.7%	90%